

平成28年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT28131

トンシル、ドンシル…トッケビがきた！

～韓国のお話の世界を楽しもう・韓国文化体験講座～



開催日：平成28年7月30日(土)

実施機関：東京純心大学

(実施場所) 東京純心大学 図書館

実施代表者：大竹聖美

(所属・職名) 現代文化学部・教授

受講生：小学生5名・中学生1名

関連URL：

【実施内容】

■工夫した点■

「近くて遠い国」ともいわれる韓国の文化について、次世代を担う子どもたちにしなやかな感性で隣国の文化に出会い、感動共感してもらうために以下の点に留意した。

- ①韓服(チマ・チョゴリ)を着た留学生が原語による韓国の絵本の読み聞かせをする。
- ②韓国文化理解教材(絵本・伝統工芸品・服飾文化財)を展示し、多文化理解の助けとする。
- ③韓国料理のランチタイムを設け、留学生を交えて食事をする事で文化理解と交流を深める。
- ④伝統工芸(韓紙工芸)の作品作りと韓服の試着を通して、韓国文化を体験的に学習してもらう。

■当日のスケジュール■

- 10:30-11:00 受付(東京純心大学事務局前集合)
- 11:00-11:15 開講式(科研費と研究に関するお話)
- 11:15-11:35 ミニ・レクチャーA:韓国の<トッケビ>とその魅力
- 11:35-11:45 原語で聞く韓国の絵本(『さびしがりのトッケビ』)読み聞かせ(留学生)
- 11:45-12:00 討論:日本の<鬼>と韓国の<トッケビ>
- 12:00-12:10 ミニ・レクチャーB:韓国の韓紙工芸
- 12:10-12:30 実習:①韓紙工芸体験(トッケビ模様の筆立てを作ろう(前半))
- 12:30-13:15 韓国食文化体験(韓国料理(韓国粥・チャプチェ)ランチタイム・学食)
- 13:15-13:30 ミニ・レクチャーC:韓服(チマ・チョゴリ)ってどう着るの?(講師:大竹聖美)
- 13:30-14:40 実習:②韓紙工芸体験(ニスを塗ろう(仕上げ))③韓服(チマ・チョゴリ)を着てみよう
- 14:40-14:50 修了式(「日韓文化交流子ども大使」授与)
- 14:50-15:00 写真撮影・解散

■実施の様子■

○図書館にて「韓国の絵本と文化」を展示



○韓国絵本の読み聞かせとミニ・レクチャー



○韓紙工芸にチャレンジ



○トッケビ模様の筆立てを作成中



○韓国粥とチャプチェのランチ



○親子でチマチョゴリ



○留学生と一緒にピース



■事務局との協力体制 ■

会計管理と広報、備品準備、写真撮影など、講座内容以外の管理運営はすべて事務局で行い、当日の会場設営及びプログラム進行は実施代表者及びアルバイト学生が行った。

■広報体制 ■

日本学術振興会のHPを通して一般に広報するとともに、八王子市教育委員会の後援を申請し、市内の小中学校に対象学年全生徒分のチラシを学校を通じて配布した。各小中学校教室にてチラシが配布され、生徒が家庭にチラシを持ち帰ることで保護者へのイベント告知ができた。また、「大学コンソーシアム八王子」による夏休み子供向けイベントのパンフレットや教育委員会のHPにも記事を掲載し周知を図った。

■安全体制 ■

参加者を2～3名ずつの小グループに分け、学生の補助を付け、実施代表者や協力者がそれぞれのグループを見て回り、十分な指導に当たった。

■今後の発展性と課題■

韓国料理のランチタイム、韓紙工芸体験、チマ・チョゴリの試着など、各場面で留学生との交流を交えながら楽しく文化体験ができた。ただ、やはりチマ・チョゴリの体験試着の場面で、参加者の体格に幅があり、試着用チマ・チョゴリの不足と、サイズバリエーションの不備が気になった。今年は2着女子小学生用のチマ・チョゴリを増やしたが、次回実施時は中学生のサイズ対応もしなくてはならないことが判明した。また、夏場の実施で汗をかくため、クリーニングなどのメンテナンスも必要である。

当日は病気等による欠席が3名おり、結果参加者6名(ほかに対象学年以外が3名)で残念であった。チラシ配布強化を図ったが、結果が出ず残念であった。プログラム内容は好評であったので、来年度は広報をさらに工夫したい。

【実施分担者】 増田光(国際教養学科学科長・教授) 井上教(地域共創センター主任・准教授)

川本太郎(こども文化学科助教)

【実施協力者】 8名

【事務担当者】 丸山幸子(地域共創センター)